

# 2015年度 東北大学 前期 英語

## I

出題範囲	長文読解
難易度	★★★★☆
所要時間	35分
傾向と対策	<p>(4)のように、下線部の言葉がいかにも下線部前を指し示しているように見えても、答えにつながる記述が下線部のうしろにくるという場合がある。これは英語という言語が結論を文章の頭に述べることが多いことに起因しているので、今後も英語のこの特性を頭の片隅に入れて読めるとなおいだらう。</p> <p>例えば A because B と述べられる文をわざわざ倒置法で Because B, A と書いてある文は、B のことを強調していることが多い。</p> <p>(3)は逃したくない問題であった。(2)と(5)は「本文に即して日本語で説明」することを求める、苦手とする受験生が多いタイプの出題方式であったが、今回の特殊な出題形式では片方がわかった人はもう一方もわかることになり、差がつきやすいポイントとなったのではないだろうか。</p>

### 本文訳

1980年代半ば、私は大学の交換留学プログラムでポーランドからアメリカに来た。私は存在していることさえ知らなかった品物で溢れかえる店を目にした。しかし1984年に、ポーランドは前例のない物不足に陥った。それはまるで共産主義政府がもちうる力すべてをもってして人々を苦しめようとしているようだった。肉を買うためには我々は配給切符が必要で、砂糖についても同様だった。チョコレートも配給制だったが、子どもがいないともうすることができなかった。ほかの生活必需品は手に入れるのが非常に困難で、日が昇る前から店の前に長蛇の列ができるほどであった。

私がアメリカに着いてから数日後に、友人が、彼女が住んでいるロングアイランドにあるスーパーマーケットに私を連れて行った。どのようなものなのか見当はついてしたが、ショッピングカートが精巧なピラミッドに見えるまで次々と品物を積んでいく人々を見続けるうちに、気分が悪くなった。これほどの食料を誰が必要としているのかと、不思議に思った。これはほとんどみつともないことだった。間もなくして、私自身の買い物の習慣も変わり、量においてでないにしろ、買い物の仕方においてアメリカ人のそれに似てきた。しかし長年の間、私は昔の習慣を完全に捨ててはいなかった。まず1つとして、私は壊れたものをすべて直してもらおうとした。1カ月前に私が買ったサンダルストラップを再度つけてもらうために、私を修理屋に連れていくよう夫に強く要求したことを覚えている。サンダルは安物だった。私はそのサンダルのために20ドルも払ってはいなかったらう。(A)残念なことに、この靴を直していたらその値段の半分以上かかっていたであろうことを知った。電気製品やほかの多くの日用品についても同じことが当てはまるということも私は徐々に知っていった。

直せるかもしれないものを失うことを嫌うことは、不本意ながらもまだ私は表に出してしまうが、祖母から譲り受けた性質である。私が丈夫に作られていてこれからの寿命が長いものを好むことも、祖母に起因すると考えられる。彼女がよく低品質のものは我慢ならないと言っていたことを覚えている。現在の基準からすれば、彼女は服をほとんどもたず、コート、帽子、ジャケットなどを長い年月の間着続けた。彼女の服はすべて長持ちするように作られていて、高品質な生地が裁縫師や仕立て屋によって丁寧に縫製されたものであった。靴についても同様のことがいえる。春と秋を1つとして数えて各季節に1足、そして誕生日パーティーや家族の祝い事に履いていく「おでかけ用」の靴を1足で、彼女はたったの4足しか靴をもっていなかった。それらが新しい靴底、ストラップ、バックルなどを必要とすれば、彼女はそれらを律儀に修理屋へと持って行った。彼女のアパートは、私が実用的と呼ぶようになった様式で家具が備えつけてあった。必要なもののみで、簡素で機能的、贅沢さはなく、いかなる飾りもない。彼女の家にあるさらに古い物は、私が出どころをまったく知らない、下が大理石で上が真ちゅうでできた、骨董品のナプキン入れだけであった。きっと彼女は、第2次世界大戦中に彼女のアパートが火事に遭い、所有物がすべてだめになってしまったことから、<sup>(B)</sup> この思い入れをしない態度 を取るようになったのだろう。

私の祖母は2001年の秋に亡くなった。私の母は既に亡くなっていたので、祖母のアパートを片付けることは私のお婆の作業となった。私は、祖母の所持していた物、形見の物が欲しいと彼女に伝えた。祖母が、人の死後にその家族が通常とっておくような物を1つももっていなかったため、お婆は途方に暮れてしまった。結局私は丸いガラスの文鎮と何枚かの写真を受け取った。お婆はナプキン入れを、そして私の妹(姉)は祖母が針やレシート、硬貨といったものをしまっていた金属製のかごを受け取った。文鎮が私にとって多くの思い出が詰まった物であったかという、そうでもない。祖母の物であって彼女のアパートにあったことはわかっていたが、手に取ったり、眺めたりしたときに郷愁で圧倒されるような類のものではなかった。何度も彼女のもとを訪ねたことや小さなキッチンで私のために作ってくれた料理の数々など、私には祖母のアパートに関しての、愛着が湧くような思い出が沢山あり、私が受け継ぐことができたかもしれない、取るに足りない物よりもこれらの思い出が大切であるということはわかっている。しかし、彼女が大切に思い愛していたものをいくつか遺してくれていれば、私がいまそれをとっておいて、あとになってから私の娘たちへと受け継がせることができたのに、と思うことがある。私の祖母はまだ私の記憶の中で生きている。夏にしか彼女のもとを訪ねることができなかったため、娘たちの記憶は限られている。私が死んでしまえば、<sup>(C)</sup> 彼女は2度目の死を迎えることになる。その後は、彼女もっていた物が彼女の人生を思い出させるもの、異なる世代をつなぐ記念品となっただろう。

私がアメリカに来たとき、私はもっていたものをすべてポーランドに置いてきた。私は、服といくつかの本を入れた大きなリュックとスーツケースをもって来た。そういう意味では私の状況は祖母のそれと似ていたが、<sup>(D)</sup> 類似点 はここまでだ。私の置かれた状況は、戦争や歴史的危機の結果生まれたものではなかった。確かに、私は思い入れのあった物を失ったが、それらはただ消えたのではない。単純にそれらは持ち主を変えただけで、多くは一家の中に残った。そして祖母と違い、私は自分の心的幸福のために物が必要であると感じていた。のちに私の夫となる男性は多くの本やレコードをもっていて、私は喜んでそれらをすべて自分の物として受け入れた。少

しずつ、私たちは家をさらに多くの本とレコード、さらに多くの写真やアルバム、絵画、美術品やクリスマスの飾りなどで満たしていった。何年かあと、私たちの娘たちの人形、テディーベア、お絵かき、貝殻、石、宿題や学校の課題などが大切な物のうちに追加された。収集家ではないが、<sup>(E)</sup>私は物に思い入れをもつ。

### 解説

(1)

#### 解答例

残念なことに、この靴を直していたらその値段の半分以上のお金がかかっていたであろうことを知った。電気製品やほかの多くの日用品についても同じことが当てはまるということも私は徐々に知っていった。

1 文目を訳す際のポイントは、To my disappointment を「残念なことに」と訳せたか、そして仮定法をうまく処理できたかということだ。To one's (感情を表す名詞) の形ならどれでもそうなのだが、To one's disappointment は「残念なことに、がっかりしたことに」と訳され、誰が落胆したのかが明らかな場合(おもに語り手)は所有代名詞を訳出しなくても問題はないだろう。would have が「(Aならば) Bだったろう」の仮定法であり、if がないため若干わかりづらかったかもしれない。「その靴を直すことはその値段の半分以上かかったであろう」としても意味は大きく外れないが、受験英語である以上仮定法で訳すのが安全策であろう。2 文目は learned のあとに that が省略されていて、that 節が learned の目的語となっている。be true of A という構文は、その前にあることについて述べたある事実が A についても当てはまるということの意味で、「A についても同様である、A にも当てはまる」と訳される。似た意味の言い回しとして go for A もあるので、合わせて覚えておこう。ただし、go for A という形にはほかにもさまざまな意味があるため、辞書などの例文を参照にしてこの用法がどういった場面で使われるかに注意しておくべきだ。items of daily use は素直に「日常的に使う物」と訳してもよいが、その意味を考えて「日用品」としてしまうほうがスマートである。自己満足なのでちらでもよいだろう。

(2)

#### 解答例

筆者の祖母が、物には執着せず、機能的な物以外の無駄な物を家に置かないようにしていたという態度。

文章を読む際の基本ではあるが、this とあるので、まず下線部の前の内容に注目する。下線部を含む段落は、筆者が物を修理したがる性格を祖母から譲り受けたことの説明から始まり、祖母がいかに持ち物をできるだけ持たずにそれらの物を大切にしたいかという話の具体例を挙げていく。これだけでは祖母が物に愛着をもっていたがゆえに物を大切にしていたとも考えられる。しかし、次のアパートの話において「無駄な物は置かず、機能が必要な物だけを揃える」という別の例を挙げたことにより、祖母がなるべく持ち物を減らしてそれらを何度も修理に出して使い続けていた理由は、無駄に物をもたなくて済むようにするためであったことがわかる。下線部のあとに続く「第2次世界大戦中に祖母の持ち物がすべて燃えてしまった」ことも、祖母がそのような態度を取るよ

うになった理由として対応しており、このことを裏付けている。

下線部の *unsentimental* については、その単語がわからなくても日本語の「センチメンタル」という言葉が感情に関わる言葉であるということさえ知っていれば、*un-sentimental* が「感情的でない」といったニュアンスをもっているということは推測できるはずだ。下線部前後の話も鑑みて「執着しない、思い入れをしない」などと解釈するのがよいだろう。また、具体的に書けとの指示があるので、アパートの中の様子についても触れておくべきである。

(3) 正解は c

下線部を直訳すると、全訳にもあるとおり「彼女は2度目の死を迎えることになる」となる。2つ前の文で、*My grandmother is still alive in my memories* 「私の祖母はまだ私の記憶の中で生きている」とあり、下線部直前で「私がいなくなったら」とも書いてあるので、「2度目の死」は「記憶から消えること」と解釈することができる。よって答えは(c)。(a)と(d)は2001年に祖母が亡くなったとき、すなわち「1度目の死」ですでに実現されたはずであり、(b)については下線部のあたりでは既に遺品の話から思い出の話に移っていて、話題から外れているため不適。

(4) 正解は a

下線部の *resemblance* は、「似ている」という意味の動詞である *resemble* が名詞化したものであるため、「類似点」と訳される。また *resemblance* には定冠詞の *the* がついているため、その「類似点」は既に文章に出ているはずである。しかし、下線部前に注目しても筆者と祖母の状況が似ていると記述してあるだけで、具体的にどう似ているかには触れていない。実は、具体的な内容を説明しているのは下線部のあとの部分である。下線部の1行後に *Yes, I did lose things I was attached to* 「確かに、私は思い入れのあるものを失った」とあるが、これが下線部(B)の直後において「祖母が第2次世界大戦中に持ち物をすべて失った」とこととの対応関係にあることに気づけたらどうか。これに気づくことができれば、答えが(a)であるとわかる。なお、(b)と(c)は述べられていないことなので明らかに誤りであるが、(d)は文中で述べられている筆者と祖母の類似点としては正しい内容である。ただ、下線部前後において述べられているのは、持ち物を大量に失った経験があるという内容である。物を大切にするという内容は2,3段落で述べられていて、この文脈にはそぐわない。よって、答えは(a)。

(5)

解答例

筆者の祖母とは違い、筆者は物に思い入れをもち、家族にゆかりのある物を家に置いておくことに幸せを感じるということ。

ここでは(2)で問われた *unsentimental* の対義語 *sentimental* に下線が引かれており、さらに(un)sentimental である対象は両方とも「もの」であるため、対比的に考えて(2)の真逆の方向にもっていくことができれば難しく

ないはずである。(2)においては、「筆者の祖母が物に執着せず、無駄な物をもたないようにする態度を取っている」ということを答えとしたが、今回は筆者についての内容であると同時に unsentimental ではなく sentimental であると述べられている。よって、この問題の解答の基本方針としては、筆者について(2)の解答の反対のことを述べればよい。また、今回も具体的に書けとの指示があるため、家族に関する物で家を満たしていくという具体例を要約して記述する。最後の相違点として、下線部の6行前にある unlike my grandmother, I felt I needed things for my emotional well-being の内容として「幸せのために物が必要」という主旨も含めれば解答となる。

### 表現

- unprecedented 「それまでにない, 史上初の」
- do everything in A's power 「(Aに) できる限りのことをする」
- rationed 「配給された」
- elaborate 「精密な, 手の込んだ」
- scandalous 「恥ずべき, みっともない」
- quantity 「量」
- go about V-ing 「Vする (の)に取りかかる)」
- for one thing 「1つには」
- exhibit A 「A (感情など) を表す」
- ahead of A 「(Aにとって) これからの」
- dutifully 「忠実に」
- marble 「大理石」
- brass 「真鍮の」
- keepsake 「形見の品」
- paperweight 「文鎮」
- nostalgia 「郷愁」
- attached to A 「Aに愛情をもつ」
- resemblance 「類似点」
- scandalous 「恥ずべき, みっともない」
- to one's disappointment 「残念なことに, がっかりしたことに」

(山藤孝介, 峯岸佑奈)

# 2015 年度 東北大学 前期 英語

## II

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	文章が長く、あまり馴染みのない話題であったうえに sound と musical という単語が多数散見されたためにとっつきにくかったとは思いますが、その分設問はやや簡単だったといえる。本問は特に本文が読み取れなくても下線部とその周辺さえ掴めれば解ける問題が多かったのではないだろうか。

### 本文訳

私たちは皆、独立した複数の能力に応じて音楽を聞く。しかし、分析するために、私たちが聞く過程全体をいけばその構成要素にばらしてみれば、その過程はより明瞭なものになるだろう。ある意味私たちは皆 3 つの独立した段階で音楽を聞いているのだ。これより適当な言葉がないので、これらをこう名付けてみたらどうだろう：(1)感性に訴えかける段階、(2)表現の段階、(3)混じりけのない音楽の段階。(A) 聞く過程をこれらの仮説的な段階に機械的に分けることによって得られる唯一の利点は、私たちの聞く方法に関して抱く見解がより明瞭になることだ。

音楽を聞く最も単純な方法は、音楽の音そのものの純粋な喜びを求めて聞くことだ。これが感性に訴えかける段階だ。考えることなく、すなわち決して熟慮することなく音楽を聞く段階のことである。人は何かをしながらラジオをつけたり、音の響きの中でぼんやりと入浴したりする。ある種愚かな、しかし魅力的な精神状態は音楽の単純な音の魅力によって作り出される。

あなたが部屋で本を読みながら座っているとしよう。ある 1 つの音符がピアノで奏でられるのを想像してほしい。その 1 音符だけでなく、十分に部屋の雰囲気は変えられる。音楽の音の要素とは、あざ笑ったり低く見積もったりするのは愚かであるような、強力で不可解な力なのだとわかる。

驚くべきことに、(B) 自分のことを素質のある音楽愛好家だとみなしている多くの人々は、聞くことのその段階を乱用するのだ。彼らは自分を見失うためにコンサートに行く。安楽や逃避として音楽を用いる。日々の生活という現実について考えなくてもいい理想の世界に入る。もちろん、彼らは音楽のことについても考えていない。音楽のおかげで彼らは音楽を置き去りにすることができ、夢見る場所に出かけるが、音楽のおかげで夢を見ているということは、本当に音楽を聞いていることには決してならない。

そうなのだ、音楽の音の魅力は有力で素朴な力であるのだが、音楽にあなたの関心のうち不安定な部分を引き継がせてはならない。感性に訴えかける段階は音楽の重要な段階で、確かに実に重要な段階ではあるのだが、物

語全体を構成することはない。

音楽の存在する 2 番目の段階は私が表現の段階と呼んだものだ。(c) 我々はこちらで、すぐに論争に直面する。作曲者はしばしば音楽の表現的な側面に関するどんな議論をも無視することがある。ストラヴィンスキー自身は自身の音楽を、それ自体の命をもち、混じりけのない音楽的な存在であるという以外のどんな意味ももたない「物体」であり、そして「事物」であるのだと主張したのではないのか？ ストラヴィンスキーのこの融通のきかない態度は、多くの人々が多くの楽曲の中に異なった意味を読み取ろうとしてきたという事実起因するものなのかもしれない。確かなことには、音楽作品の意味するところを正確に、明確に、そして最終的にはみんながその説明に満足するようというのはまったくもって難しいことである。しかし、そうやって説明することで音楽から「表現的」である権利を奪ってしまうという両極端の一方に人を導くべきではない。

私の信念は、すべての音楽は多かれ少なかれ表現する力をもっているが、すべての音楽はその音符の裏にある意味をもっており、音符の裏の意味とは結局その楽曲が何をいっているのか、すなわちその楽曲の本質に相当するのだというものである。この問題全体は「音楽には意味がありますか？」と尋ねることで実に簡単に言明することができる。私のこの問いに対する答えは、「はい」になるだろう。そして「その意味とは何なのか、たくさん言葉を使って述べることができますか？」と聞かれれば、私の答えは「いいえ」になってしまうだろう。そこに問題がある。

頭の鈍い人たちは、この問いの 2 つ目に対する答えには決して満足してくれないだろう。彼らは常に音楽に興味をもってほしいと思っており、それが明確であるほど、彼らはその音楽を好むのだ。(d) その音楽が彼らに列車や嵐や葬式や、ほかのいかなるよく見知った概念でも、より多く想起させればさせるほど、彼らにとってその音楽はより表現的であるように思えるのだ。音楽の意味に関するこのよく知られた考えは、これに出くわしたらどこでも、そしていつでも思いとどまらせるべきだ。

音楽の存在する 3 番目の段階は、混じりけのない音楽の段階だ。音楽の楽しい音と音楽の発する表現に富んだ印象のほかに、音楽は音符それ自体、およびその過程の観点にも存在する。ほとんどの聞き手はこの 3 番目の段階について十分には意識していない。

(e) 混じりけのない音楽の段階にある音楽にもっと気を配るようになることは、私たち全員にとって実に重要なことである。聡明な聞き手であるためには音楽の素材やその素材がどうなるのかということへの意識を増大させる心構えをしなくてはならない。彼らはきっと、より意識的なやり方でメロディーやリズムやハーモニーや音色を聞いている。しかし、作曲家の考えの流れを追うためには何よりもまず、彼らは皆音楽の表現形式の原理について何かしら知っていなければならないのだ。これらの要素のすべてを聞くことは、混じりけのない音楽の段階で聞くことである。

私は、ただより明瞭にするためだけに、私たちが聞く際の 3 つの独立した段階に機械的に分けたのだということをもう 1 度いわせてほしい。実際には、私たちがこの段階のうちの 1 つか残り全部かで音楽を聞くことは決してない。私たちがするのは、それらを相互に関連付けること、すなわち同時に 3 つのすべてのやり方で聞くことだ。そうするのに精神的な苦勞はまったく伴わない。というのも、私たちは本能的にそうしているからだ。

**解説**

(1)

**解答例**

聞く過程をこれらの仮説的な段階に機械的に分けることによって得られる唯一の利点は、私たちが聞く方法に関して抱く見解がより明瞭になることだ。

まず修飾関係がわかりやすいように下線部の修飾要素を( )でくくることにする。

The only advantage (to be gained from mechanically splitting up the listening process into these hypothetical levels) is the clearer view (to be had) (of the way in which we listen).

V が is しかないため、主述構造は比較的見つけやすいだろう。主語を修飾する to 不定詞の中にある from V-ing は「～することで」といった手段を表すような意味で使われている。この問題で最も受験生を手こずらせたのは、to be had of the way をどう解釈するかという 1 点に尽きるだろう。have と of という見慣れない組み合わせに、実はそのようなイディオムがあるのかと勘繰った人もいるはずだ。しかし実際は to be had と of the way 以下 (view of A で「A に対する見解」となる) が 2 重に view を修飾しているというのが答えである。

まず to be had は have の「(考えなど)をもっている、抱く」という用法をとって「もたれている」という意味にとり、補語全体では「私たちの聞く方法に対して抱くより明瞭な見解」と訳すことができる。また to 不定詞の未来の事象を指すというニュアンスを最大限尊重すると「将来的にもつことになる」という意味にも受け取れ、それをさらに意識すれば補語の部分は「私たちの聞く方法に対して得られるより明瞭な見解」とも訳すことができる。個人的には to be had を「得られる」と訳すのはかなりの意識になると思ったので解答例は前者で書いたが、参考までに後者の解釈も説明させてもらった。

(2) **正解は d**

下線部(B)は段落の冒頭にあり、それを受けてそのあと they が何度も用いられていることを見ると、英語の文章によくある抽象的な話題提起→具体的な内容説明の流れだとわかるはずだ。abuse that level in listening, 直訳すると「聞くことのその段階を乱用する」の意味は理解できなかった人も多いと思うが、下線部のあとの 2 文「彼らは自分を見失うためにコンサートに行く。安楽や逃避として音楽を用いる。」だけ見ても(b)と(c)は省くことができ、(d)が答えだとわかるだろう。ちなみに(a)に含まれる expressive は下線部(B)のある段落の 2 つうしらの段落で始まる expressive stage にまつわる話題なので、下線部 B の内容説明としては正しくなく、不適。

(3) **正解は a**

下線部(C)の次の文から作曲家の話になっているので(b)と間違えた人もいるだろうが、内容確認問題ではきちんと本文に明確な根拠があることを確かめて解答しなければならない。確かに作曲家が自分の作品の意味を決定したがるのはストラヴィンスキーの例も用いて述べられているが、それと音楽の表現に関する論争が生じること

との関係は何ら書かれていないし、もし作曲家の意図した意味で決定されるならそもそも論争は起こらないはずだ。(c)もこの段落の第5文で「多くの人が多くの意味を読み取ろうとする」という描写があるので誤り。(d)に関してはそのような記述は見当たらないため不適。第6文に「みんなを満足させられるように楽曲の意味を説明するのは難しい」とあるのが根拠となり正解は(a)。消去法でなくても解くことはできるが、安全を期すために消去法で解くのが無難だったと思われる。

(4)

**解答例**

その音楽が彼らに列車や嵐や葬式やほかのいかなるよく見知った概念でも、より多く想起させればさせるほど、彼らにとってその音楽はより表現的であるように思えるのだ。

いわゆる「The 比較級～, the 比較級～」構文と呼ばれるものだ。「～すればするほど～である」と訳するのが原則で、前置された比較級が何を修飾するのかさえわかればさほど難しくはないはずだ。今回のように more や better が単体で前置されている場合は特に解釈を間違えないよう注意して、慎重に吟味しよう。

まず前半部分をもとの形に戻すと、The music reminds them of a train, a storm, a funeral, or any other familiar conception more.となり、この more は副詞で reminds にかかって「より多く思い起こさせる」という意味になると思われる。remind A of B の形が用いられていることには絶対に気づくべきであったが、any other familiar conception の訳し方に迷った人もいるかもしれない。肯定文の any は「いかなる～も」、other は「ほかの」であるから、そのままつなげて「ほかのいかなる見知った概念も」とすればよい。ちなみに a train, a storm, a funeral は familiar conception の具体例であり、other 「ほかの」はここにかかっている。

後半部分は It appears to be more expressive to them.となり、これを訳すのに特に問題はないだろう。余談だが、appear to do「～するようだ」の用法では状態動詞しかとらないことを覚えておこう(ただし例外的に have + 過去分詞の形は状態を表すのでこの場合は動作動詞でも構わない)。

(5)

**解答例**

作曲家の考えを理解することのできる聡明な聞き手となるため、音楽の表現形式の原理について知識を蓄えるほか、音楽の素材となる音やそれがどうなるのかということへの意識を増大させ、より意識的にメロディーやリズムやハーモニーや音色を聞くようにすること。

下線部の次の文から「聡明な聞き手」のあるべき姿に言及する部分が始まる。答えの要素自体は下線部のすぐうしろにある3文を訳せば網羅できるため下記の解釈が思い浮かばなくても必要な要素を取りこぼすことはなかったと思われるが、本文に above all とあることから「音楽の表現形式の原理について知る」という点が答えとなる要素のうち最重要ポイントであるということを読み取り、それをアピールするような書き方をすること、

in order to follow the line of the composer's thought という、行動を変えるための動機となる部分も忘れずに書くこと、「聡明な聞き手」がどのように聡明であるのか具体化することなどが高得点につながるポイントだろう。模範解答では、うしろ 2 つの要素をつなげて書いた。

ちなみに Intelligent listeners must be ~ は「聡明な聞き手は~でいなければならない」という直訳ではなく、例えば Sensible students would not go to school in such a heavy storm. 「聡明な生徒ならこんなひどい嵐の中登校しないだろう。」というような条件節が隠れた仮定文のように、「聡明な聞き手なら~でなければならない」と訳すべき箇所だ。今回答案を作成するにあたって最初に挙げたような直訳をしても特に支障はなかったと思われるが、今後のために覚えておいてほしい。

### 表現

for the sake of A 「A のために、A の理由で」

break A 「A を分ける、ばらす」

sensuous 「感性に訴えかける」

hypothetical 「仮定の」

in any way 「(否定文で) 決して~ない」

absent-mindedly 「ぼんやりして」

brainless 「愚かな」

note 「音符」

strike 「(音や楽器) を弾く、奏でる」

ridicule A 「A をあざける、嘲笑する」

qualified 「有能な、適任の」

read A into B 「B の中に A を読み取る」

piece 「楽曲、作品」

therein 「そこに」

simple-minded 「素朴な、無邪気な」

soul 「(形容詞を伴って) ~な人」

sensitive to A 「A に気を配る」

prepare A to do 「A に~する心構えをさせる」

tone color 「音色」

above all 「とりわけ、何よりもまず」

form 「(文学、音楽の) 表現形式」

correlate A 「A を関連づける」

(峯岸佑奈, 吉田春輝)

## 2015年度 東北大学 前期 英語

### III

出題範囲	会話文読解, 自由英作文
難易度	★★★☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	本文に難解な文法構造を含んだ文章が無く, 高度な英単語も登場しないため非常に読みやすい。(1)も答えがほぼすべて文章に明記されているという平易な問題である。(2)も理由を最低1つ書けばよい点や, 文章の分量がやや少なめでよい点を加味すれば決して難しい問題とはいえない。この問題では高得点を目指したい。

#### 本文訳

ロバーツ先生：皆さん、おはようございます。今日は学生によるディベートの授業の初回です。今回のテーマは空の旅についてで、議題は「日本国内の空の旅は推奨されるべきではない」です。ケイコが最初にこの案について賛成の主張をし、それに対してジュンコが反論します。ケイコ、それではどうぞ。

ケイコ：みなさん、おはようございます。私は今日、先ほどの案に対する賛成の意見を述べたいと思います。日本国内で空の旅を際限なく行うことは、もはや私たちがする余裕のない贅沢です。第1の理由はそのような行為が環境に対して極めて有害であるということです。飛行機が排出する炭酸ガスはとて多く、地球温暖化の原因であることも立証されています。それゆえ私たちは環境を守るためにできるだけ空の旅を減らそうと努めるべきであり、それは単に日本のためだけでなく世界のためでもあります。第2の理由は、4つの島からなる日本にとって空の旅は実は不要だということです。沖縄への旅行はまた別の話であると認めますが、いまや日本の至る所に速くて環境にやさしい優れた鉄道網が張り巡らされています。この鉄道網は飛行機の立派な代わりとなります。ですから、本当にほとんどの場合において飛行機を使う必要はありません。最後に経済的な理由があります。空の旅は、燃料価格が高騰し続けているため旅行者にとって割高であるにも関わらず航空会社は未だに利益を上げることに必死です。さらに地方空港は十分な集客力がない場合が多く、全体として航空業界は費用対効果が高くありません。いまこそ空の旅はあまりに害が多くお金がかかり過ぎるので先がないということを認めるときです。ご清聴ありがとうございました。

ジュンコ：ありがとう、ケイコ。私は3つの理由から今回の案に反対します。まず最初に、空の旅を支持する確固たる経済的な実情があります。たくさんの仕事が空の旅に依存しており、パイロットやキ

キャビンアテンダントに限らず、空港や航空会社で働く人々、また高速輸送を頼りにしている人々もいます。そのような人々が生活手段を失わざるを得なくなってしまうのはいけません。2 番目に、私は気候変動が深刻な問題であるという点においてケイコに賛成しますが、空の旅は炭酸ガスによる環境汚染の原因としては例えば、石炭を燃やすほど有害ではないように思います。私達はまずこれらのもっと深刻な原因のほうに取り組むべきです。最後に、最も重要な理由として自由に関する問題を取りあげます。この民主国家の中に生きる人々は自分たちの望むように旅行をする権利を期待しています。そのようなことが私たちの生活をより便利にし、そして万人にとってより多くの機会を生み出してきました。私たちは自分達の生活の質を落とすべきではありません。ご清聴いただきありがとうございます。

ロバーツ先生：発言者のお 2 人、ありがとうございました。それでは聴いていたみなさんから何か質問はありますか？

### 解説

(1) 正解は (1)○ (2)× (3)× (4)× (5)○

#### 選択肢訳

- (1) ケイコが国内空の旅に反対する主な理由はそれが環境にもたらす被害である。
- (2) ケイコは空の旅は安価で効率がよいと思っている。
- (3) 人々は沖縄本州間は船で旅行すべきだとケイコは主張する。
- (4) ジュンコは気候変動を重要な問題だとは考えていない。
- (5) ジュンコは空の旅の数が減ってしまうと多くの仕事が失われてしまうと考えている。

それぞれの選択肢に分けて説明する。

- (1) ケイコは発言の第 4 文で国内の空の旅を推奨すべきでないおもな理由として「空の旅が環境に対して極めて有害なものである」ことを挙げている。よって一致する。
- (2) ケイコは発言の最後から 4 つ目の文で「燃料価格の上昇による空の旅の値段の高額化」と言及し、最後から 3 つ目の文で「航空業界は費用対効果が高くない」と述べている。
- (3) ケイコは発言の最後から 6 つ目の文で沖縄と本州間の旅行について言及しているが、船に関してはまったく触れていない。よって不一致。
- (4) ジュンコは発言の第 6 文で、「気候変動は深刻な問題である」と述べている。よって不一致。
- (5) ジュンコの発言の第 4,5 文の内容と一致する。

(2)

**解答例**

(例1) I agree with Keiko. That's because airplanes depend much on the weather, so they more often delay than other transportation, and sometimes flights are canceled. It's a problem. If you do not want to be bothered by the delay, you should use, for example trains and cars. They are more punctual.

訳：私はケイコの意見に賛成です。なぜなら飛行機はかなり天気の影響をかなり受けやすく、そのためほかの交通機関に比べて遅れることが多く、ときには欠航にもなるからです。これは問題です。もしあなたが遅延にふりまわされたくなければ、例えば自動車や電車を使うべきです。自動車や電車は飛行機よりも時間に正確です。

(例2) I agree with Junko. This is because airplanes are quite safe transportation. Airlines manage safety thoroughly and they check strictly anything passengers bring in airplanes. Therefore, the number of air accidents is far smaller than that of other transportations.

訳：私はジュンコの意見に賛成です。なぜなら飛行機はとても安全な乗り物だからです。航空会社は徹底した安全管理を行い、乗客の持ち込むすべてのものに対して厳しい検査を行っています。そのおかげで、航空事故の数はほかの交通機関の事故の数よりもずっと少なく済んでいます。

文章に出てきた発言者のどちらに賛成するのかを、少なくとも1つ以上の理由をつけて答える問題。自分の意見を書く前にどちらの意見に対して賛成しているのかを明記しよう。(例1)ではケイコに賛同する意見を述べた。天気の影響を受けやすい飛行機での移動は不便であることを理由に挙げている。(例2)ではジュンコに賛成する意見を述べているため、飛行機が安全な乗り物であることを理由に挙げた。

**表現**

in favor of A 「Aに賛成して、Aに味方して」

luxury 「贅沢」

carbon 「炭素」

cost-effective 「費用効果がある」

livelihood 「暮らし」

democracy 「民主国家 (可算名詞の場合)」

(岡田怜士, 中島庸元)

# 2015 年度 東北大学 前期 英語

## IV

出題範囲	和文英訳
難易度	★★☆☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	単語面でも難解な語彙や、うまい言い換えを必要とする箇所が特に見当たらず、日本語に沿って訳していけば問題はなかったように思う。内容の複雑さに惑わされずに、しっかり解ききりたい問題である。

### 解答例

(A)

In short, the aim of this book is to search for a flexible way to connect us, who are weak and tiny, to the extraordinarily large world.

(B)

However, since the latter half of the 20th century, people have begun to realize that “big systems” and “big structures” never make us happy.

### 解説

(A)

日本語からしてやや複雑で英訳しにくそうに見えるが、順に整理しながら追っていけば問題なく解けるだろう。まず下線部の骨格を見ていくが、大きく主語と述語だけを抜いてみると「～を探すが、この本の目的である」という部分がそれに当たるとわかり、主語が長く頭でっかちになってしまうことを避けるために、主語と述語を入れ替えて英訳すると the aim of this book is to search for ～ というふうになる。ここでの注意点は、「～を（求めて）探す」という意味なので、search のあとに前置詞 for を必ずつけるということである。search だけだと「（～の中）を探す」という意味になってしまうので違いに気をつけてほしい。

では次に、この search for の目的語部分を見てみる。探す対象は「自分を世界にしなやかにつなぐ方法」である。「しなやかにつなぐ」という意味がやや捉えづらいが、ここではそのまま直訳して a flexible way to connect または a way to flexibly connect などとしておけば問題ないだろう。

さらに connect の目的語も見ていく。基本的には connect A to B の形で A に「自分」、B に「世界」を入れればよいのだが、「自分」が指し示す対象としてこの文章を読んでいる人たちが想定されていることを考慮して、ここを me や myself ではなく、us や ourselves としてほしい。最後に、「自分」の詳しい説明として「弱くて小

さな」, 「世界」の詳しい説明として「途方もなく大きい」という修飾語があることも忘れずに, それぞれ関係代名詞 which の非制限用法などを使ってつけ足したり, 形容詞で修飾したりして英訳に反映しておけば解答は完成するだろう。

(B)

こちらは特につまることもなく容易に解き進められるだろう。注意したいところとしては, 「20 世紀後半以降」のところであらう after を使ってしまわないこと (after だと 20 世紀後半自体は期間から除外されてしまう), 「少しずつ気づき始めた」というニュアンスを含めるために, この部分を現在完了形で訳出することなどである。文構造は平易な問題ではこのような細かい点, 差をつける決め手となってくるので気をつけていこう。また模範解答では「少しも幸せにしない」という部分の強調を反映して, ここを not より強い never で訳した。

ほかには「少しずつ」を gradually として入れる, 「少しも幸せにしない」の部分で don't make us any happier とする, that 節の構造を変えて neither "big systems" nor "big structures" make us happy とするなどといった別解もあるだろう。

(吉田春輝, 大西功泰)